

(別紙様式4) <span style="float: right;">令和5年7月31日</span>																																																																																																																																							
職業実践専門課程等の基本情報について																																																																																																																																							
<b>学校名</b> 履正社国際医療スポーツ専門学校		<b>設置認可年月日</b> 平成10年4月1日	<b>校長名</b> 池尾 忠思	<b>所在地</b> 〒 532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																																																																																																																																			
<b>設置者名</b> 学校法人履正社		<b>設立認可年月日</b> 大正11年4月1日	<b>代表者名</b> 釜谷 等	<b>所在地</b> 〒 532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																																																																																																																																			
<b>分野</b> 医療	<b>認定課程名</b> 医療専門課程	<b>認定学科名</b> 鍼灸学科	<b>専門士認定年度</b> 平成17(2005)年度	<b>高度専門士認定年度</b> -	<b>職業実践専門課程認定年度</b> 平成28(2016)年度																																																																																																																																		
<b>学科の目的</b>	学校教育法及びはり師きゅう師法に関する法律に基づき、はり師きゅう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた医療人の育成と社会に貢献できる人材を送り出すことを目的とする。																																																																																																																																						
<b>学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)</b>	アスリートに対する実践的な実習環境における「鍼灸+AT」、「鍼灸+スポーツ+メディカルアスリート専攻」というダブルラーニング制度を利用したスポーツ分野の学びでは、医療国家資格に加えて日本スポーツ協会公認のAT(アスレティック・トレーナー)はじめトレーナーの資格取得を目指す。また、「医療+美容」分野において活躍できるような土台を作るカリキュラム「トータル美容専攻」、「鍼灸+パーソナルトレーナー」を設けることで健康な体作りに寄与できる技術を有する資格(インストラクター、ピラティス など)を取得することも可能である。																																																																																																																																						
<b>修業年限</b>	<b>昼夜</b>	<b>全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</b>	<b>講義</b>	<b>演習</b>	<b>実習</b>	<b>実験</b>	<b>実技</b>																																																																																																																																
3年	<b>昼間</b> ※単位時間、単位いずれかに記入	2,655 単位時間 96 単位	1,335 単位時間 54 単位	330 単位時間 11 単位	180 単位時間 4 単位	0 単位時間 0 単位	810 単位時間 27 単位																																																																																																																																
<b>生徒総定員</b>	<b>生徒実員(A)</b>	<b>留学生数(生徒実員の内数)(B)</b>		<b>留学生割合(B/A)</b>																																																																																																																																			
180 人	123 人	0 人		0 %																																																																																																																																			
<b>就職等の状況</b>	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>46</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>45</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>39</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>87</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>59</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>85</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>・就職先未決定(国家試験未取得者含む)</p> <p>(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和4年度生 鍼灸院、鍼灸整骨院、医療機関(整形外科、クリニック など)、プロスポーツチーム(トレーナーとして)、教育機関(専修学校) など</p>							■卒業者数(C)	46	人	■就職希望者数(D)	45	人	■就職者数(E)	39	人	■地元就職者数(F)	23	人	■就職率(E/D)	87	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	85	%	■進学者数	1	人	■その他																																																																																																							
■卒業者数(C)	46	人																																																																																																																																					
■就職希望者数(D)	45	人																																																																																																																																					
■就職者数(E)	39	人																																																																																																																																					
■地元就職者数(F)	23	人																																																																																																																																					
■就職率(E/D)	87	%																																																																																																																																					
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%																																																																																																																																					
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	85	%																																																																																																																																					
■進学者数	1	人																																																																																																																																					
■その他																																																																																																																																							
<b>第三者による学校評価</b>	<table border="1"> <tr><td>■民間の評価機関等から第三者評価:</td><td colspan="7">無</td></tr> <tr><td>※有の場合、例えば以下について任意記載</td><td colspan="7"></td></tr> <tr><td>評価団体:</td><td>受審年月:</td><td colspan="5">評価結果を掲載したホームページURL</td><td></td></tr> </table>							■民間の評価機関等から第三者評価:	無							※有の場合、例えば以下について任意記載								評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL																																																																																																													
■民間の評価機関等から第三者評価:	無																																																																																																																																						
※有の場合、例えば以下について任意記載																																																																																																																																							
評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL																																																																																																																																					
<b>当該学科のホームページURL</b>	<a href="http://www.riseisha.ac.jp/">http://www.riseisha.ac.jp/</a>																																																																																																																																						
<b>企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)</b>	<table border="1"> <tr><td colspan="8">(A: 単位時間による算定)</td></tr> <tr><td>総授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="6"></td><td>〇〇 単位時間</td></tr> <tr><td colspan="8">(B: 単位数による算定)</td></tr> <tr><td>総授業時数</td><td colspan="6"></td><td>96 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>12 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>3 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td colspan="6"></td><td>96 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>12 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="6"></td><td>3 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="6"></td><td>1 単位</td></tr> </table>							(A: 単位時間による算定)								総授業時数							〇〇 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							〇〇 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数							〇〇 単位時間	うち必修授業時数							〇〇 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							〇〇 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							〇〇 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							〇〇 単位時間	(B: 単位数による算定)								総授業時数							96 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							12 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数							3 単位	うち必修授業時数							96 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							12 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							3 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							1 単位
(A: 単位時間による算定)																																																																																																																																							
総授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
うち企業等と連携した演習の授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
うち必修授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							〇〇 単位時間																																																																																																																																
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							〇〇 単位時間																																																																																																																																
(B: 単位数による算定)																																																																																																																																							
総授業時数							96 単位																																																																																																																																
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							12 単位																																																																																																																																
うち企業等と連携した演習の授業時数							3 単位																																																																																																																																
うち必修授業時数							96 単位																																																																																																																																
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							12 単位																																																																																																																																
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							3 単位																																																																																																																																
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							1 単位																																																																																																																																
<b>教員の属性(専任教員について記入)</b>	<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>3 人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>2 人</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>8 人</td></tr> <tr><td>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td></td><td>4 人</td></tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計		8 人	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人																																																																																																											
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																																																																																																																																					
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																																																																																																																																					
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																																																																																																																					
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																																																																																																																					
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																																																																																																																					
計		8 人																																																																																																																																					
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人																																																																																																																																					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科の入学動機の多くが、スポーツに関わる医療提供現場での就労を目標としており、その達成に向けた資質を備えた人材をアドミッションポリシー(AP)においている。ディプロマポリシー(DP)は入学動機の目標達成にむけての就職先を紹介しており、カリキュラムポリシー(CP)においては、AT講座の受講推奨はもちろん、4期180時間の臨床実習では、個別の施設配当面接を実施し、DPを見据えて実習施設の配当を行い、緊密に企業等と実習教育の連携を行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

医療専門課程の校務分掌に独立した外部委員会として位置付けている。当委員会からの意見や提案を各学科で検証と効果測定を行い、教育連携医療機関との打ち合わせ、講師派遣、インターンシップの導入などを実施している。また、鍼灸臨床におけるEBM確立に関して超音波エコー検査機器は、実技実習あるいは総合演習(卒業研究)において刺鍼部位の観察や刺入深度に関する考察などに利用するようにしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
高折 洋	医療法人山紀会 山本第一病院 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
奥田 真義	医療法人桜希会 東朋八尾病院 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
徳山 健司	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
廣野 敏明	公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
榎木 英介	サイエンス・サポート・エージェンシー合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
芦田 昇治	医療法人青洲会診療所リハビリテーション科	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
池尾 忠忠	履正社国際医療スポーツ専門学校 学校長	内部委員	—
田中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校 教頭	内部委員	—
西村 展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
辻井 宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
木下 拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
竹中 宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月22日 14:00～15:00

第2回 令和5年10月26日 14:00～15:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員会では、委員より、コロナ禍終息後、単なる座学履修の達成のみならず、医療介護現場で必要な社交性、人的交流、円滑な対人対応力などのコミュニケーション能力について、一層の養成が必要であると意見をいただいた。今後各学科において、校外での演習や宿研修、学会学術大会への参加など、人との交流を推進し、医療介護現場で就労するにふさわしい人材の育成を目指しており、今年度は、ソーシャルフィールドワークの履修にて、新入生フレッシュセミナーを実施し、その習得を目指した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コロナ禍の終息後、学生が将来、時代と社会の変化にも適応するために、医療介護多職種連携を経験するために、介護施設を併設する医療機関、接骨院の実習先と連携し、地域の中で患者が生活を過ごすことができるように実習を通じて経験させている。またDPの達成に向けても、少年や中高生の部活動のケガや不調の患者が多く来院する医療機関、接骨院にて実習を実施している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等との連携において、鍼灸治療の適用外である生命にかかわる重症重篤疾患の有無を判断し、可及的速やかに専門医に紹介できる鑑別能力を身につけることを学ぶ。また、信頼の置ける専門医を通じた医接連携の重要性を体験し、医師が下す医学的判断の重要性を考える。また鍼灸治療の対象疾患などについての観察、鑑別、判断、処置、指導管理、治療計画の策定などを見学し、自身が遭遇したケースを想定させる。

臨床実習が再開し、学期ごとに臨床実習を通じてその段階での座学で履修した知識や校内の基礎実技などでの能力を評価し、デイリーノートとしての診療録等を用いてフィードバックを受けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アスレチックトレーナー学1 アスレチックトレーナー学2 アスレチックトレーナー学3	アスリートの活動・活躍に不可欠なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習などにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患と多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。また、スポーツ選手がどのように考え、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解する。そしてテーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	おがた治療院
東洋医学臨床論2	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	ゆのう鍼灸院
臨床鍼灸学1 (経絡治療) 臨床鍼灸学2 (経絡治療)	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起こしている根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	鍼灸院さかい

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

業団(公益社団法人全日本鍼灸学会、公益社団法人東洋療法学校協会など)が開催する学会、学術大会、教員研修会、大専各のセミナーなどの案内あるいは参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映している。また近年、実習先指導者からの案内を受け、災害医療のセミナーや鍼灸保険請求に関する研修会の機会を利用している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第71回 全日本鍼灸学会 学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和4年6月3日～5日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:現代医療における鍼灸の役割り ～未来へ向けての鍼灸のチカラ～ ※口頭発表		
研修名:	第43回 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和4年10月12日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:これからをどう生きるのか ～つなぐ・つながる・広がる～ ※口頭発表・ポスター発表		
研修名:	第21回 東洋療法推進大会in埼玉	連携企業等:	全日本鍼灸マッサージ師会
期間:	令和4年10月23日～24日	対象:	専任教員
内容	テーマ:変えよう! 変わろう! 将来の鍼灸マッサージ業界 ※口頭発表(リモート)		
研修名:	第76回 日本体力医学会大会	連携企業等:	日本体力医学会
期間:	令和3年9月17日～19日	対象:	専任教員
内容	知の継承と共有 ※ポスター発表		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第45回 教員研修会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和4年8月18日～19日	対象:	専任教員
内容	テーマ:創生 ～原点から新たな未来へ～		
研修名:	第54回 日本医学教育学会大会	連携企業等:	日本医学教育学会
期間:	令和4年8月5日～6日	対象:	専任教員
内容	まもるささえる医学教育 文化の醸成 ～次代のニーズに応える医療のために～ ※ポスター発表		
研修名:	第28回 日本災害医学会総会・学術大会	連携企業等:	日本災害医学会
期間:	令和5年3月9日～11日	対象:	専任教員
内容	災害保健医療の過去・現在、そして未来“人材育成” ～東日本大震災被災地からの発信～		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第72回 全日本鍼灸学会 学術大会	連携企業等: 全日本鍼灸学会
期間:	令和5年6月9日～11日	対象: 専任教員、学科学生
内容	テーマ: 鍼灸学の次代展望～経験から学び、持続可能なエビデンスをつむぐ～	
研修名:	第44回 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等: 東洋療法学校協会
期間:	令和5年10月13日	対象: 専任教員、学科学生
内容	テーマ: 「イマジネーションを広げよう! ～鍼灸とICT-教育DX、その先へ～」	
研修名:	第22回 東洋療法推進大会in岩手	連携企業等: 全日本鍼灸マッサージ師会
期間:	令和5年10月15日～16日	対象: 専任教員
内容	テーマ: イーハートブの郷から広めよう! 伝えよう! あはきの魅力	※口頭発表(リモート)
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第46回 教員研修会	連携企業等: 日本災害医学会
期間:	令和5年8月24日～25日	対象: 専任教員
内容	テーマ: 「Well-being実現に繋がる多職種・他業種」	
研修名:	第70回 日本教育医学会 学術大会	連携企業等: 日本教育医学会
期間:	令和5年8月22日～23日	対象: 専任教員
内容	テーマ: 『子供の発育発達』	※口頭発表
研修名:	第29回 日本災害医学会総会・学術大会	連携企業等: 日本災害医学会
期間:	令和6年2月22日～24日	対象: 専任教員
内容	テーマ: 叡智の結集ーすべては被災者のためにー	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係評価者として医療機関の経営者、従事者、スポーツ指導者、医療機器業者などの企業から、学校を取り巻く環境や多角的な視線で意見と評価を受けている。近年教育現場にも加速的に推進されているデジタル教育や実施するための環境整備についても、多くの意見と提案を受け、令和6年4月の新校舎整備に活用をしている。学校運営の自己点検、自己評価の第3者評価においては、一般社団法人柔道整復教育評価機構からの審査を受審し、機能別評価、分野別評価の第1次審査に合格している。来年度最終の第2次審査を受審する計画である。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍で経験した、デジタル教育技術を今後も拡大し、養成教育に活用することが委員会より提言された。その提言を受け、コロナ以前には見られなかった、異常気象時や公共交通機関の計画運休などで、事前にオンライン履修などに切り替えることが可能となり、履修の遅れや履修計画変更を行わずに、スムーズに運用ができています。今年度は準備の都合上間に合わなかったが、今後開催する医療学科学術大会へは、地域の方々や高校教員、生徒にも案内し、オンデマンドでの配信を計画している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
川上 晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業委員
野柳 俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
中谷 功	なかたに鍼灸整骨院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
清行 康邦	公益社団法人 全日本鍼灸学会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	学識有識者
萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
池尾 忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-
田中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-
西村 展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-
辻井 宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-
木下 拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-
竹中 宏	履正社国際医療スポーツ専門学校	内部委員	-

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))  
URL: <https://www.riseisha.ac.jp/pdf/disclosure/>  
公表時期: 令和5年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

3Pを確実に遂行し、特にDPの達成に向けて、スポーツ医療、スポーツリハ、トレーナーなどのスポーツ系サービスを提供している医療機関とは、実習等を通じて平素から緊密に連携を取っており、最終学年の早期から学生との個人面談を実施し、企業等と連絡調整を図り、新卒生の求人状況、採用計画などの情報を交換している。その結果、学生には企業説明会の参加を呼び掛け、インターンシップの経験を経て、早期に企業から採用内定を受けて、国家試験前に就職先を確保することが、DPの達成につながり、試験へのモチベーションアップにも貢献している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	先生紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5) 様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6) 学生の生活支援	学生の一日、就職先・キャリアアップ
(7) 学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8) 学校の財務	情報公開(財務)
(9) 学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.riseisha.ac.jp/school/disclosure/>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(認定課程名 認定学科名)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		心理学1	臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
2	○		心理学2	スポーツを行う際のパフォーマンスは心理的狀態に影響を受けている。そのため、心理学知見を学び、新たなスポーツ観を身につける。	2後	30	2	○			○			○	
3	○		栄養学1	消化・吸収された栄養素の体内での変化や役割を理解し、どのような食品に栄養成分が含まれているのかを知り、食事と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連を理解する。	1前	30	2	○	△		○			○	
4	○		栄養学2	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。	1後	30	2	○	△		○			○	
5	○		7スレックトレーナー学1	アスリートの活動・活躍に不可欠な生命力的なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。	1後	30	2	○	△	○	○			○ ○	
6	○		7スレックトレーナー学2	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。	2前	30	2	○	△	○	○			○ ○	
7	○		7スレックトレーナー学3	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。テーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	2後	30	2	○	△	○	○			○ ○	
8	○		解剖学1 (総論・体表解剖)	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
9	○		解剖学2 (骨学)	鍼灸治療をする上でもっとも重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その附着部である骨を理解する。骨を理解することは筋肉を触診、経穴の取穴する上でランドマーク(目印)になるので骨をしっかりと理解する。	1前	30	1	○			○			○	
10	○		解剖学3 (筋学)	鍼灸治療をする上でもっとも重要な筋肉の走行、作用、支配神経などを理解する。また筋は、経穴や治療の部位で欠かせない部分であり、しっかりと理解する。	1後	30	1	○			○			○	
11	○		解剖学4 (脈管学)	生体の生命維持に関わる機能のうち、循環器系に加えて、生体の調節機構に関わる内分泌系の基本的構造について学習する。	1前	30	1	○			○			○	
12	○		解剖学5 (内臓学)	呼吸機能、消化機能、排泄・生殖機能に関わるそれぞれの器官の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を学習する。	1後	30	1	○			○			○	
13	○		解剖学6 (神経学)	神経系の基礎知識を身につけていく。その上で、鍼灸治療で起こりやすい医療過誤の一つである神経損傷を起こさぬよう、神経解剖学を十分修得する。	1後	30	1	○			○			○	
14	○		生理学1	生命の基本単位である“細胞”の働きを中心に、体液の組成や分類、物質の移動について理解を深める。また、神経系の分類をはじめ、中枢神経系の働きや、自律神経の働きを交感神経系・副交感神経系を対応させながら学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	



15	○		生理学2	筋肉の構造と収縮の仕組みや、反射などを中心とした運動調節の仕組みについて学ぶ。また、感覚の生理学的意義や一般的な感覚受容のメカニズムについて学ぶ。	1 後	30	1	○			○	○		
16	○		生理学3	血液の種類・成分・働きや、血液型について学ぶ。また、循環、血圧・循環調節の仕組み、循環の反射性調節、リンパ系も理解する。さらに、呼吸器系の構造と機能や、消化器系の口腔内消化から小腸運動までの一連の消化メカニズムを理解する。	1 前	30	1	○			○	○		
17	○		生理学4	小腸以降の消化器系の働きや、排便反射について学ぶ。また、体温調節の仕組み・障害、排泄や体液調節、各内分泌腺・内分泌ホルモンの特徴・働きを学ぶ。生殖では性腺の働きと生殖機能や、成長・老化について理解する。また、生体の防御機構において人体の機能を総合的に学ぶ。	1 後	30	1	○			○	○		
18	○		運動学	今後リハビリテーション医学を学ぶにあたってその基礎となる障害やその治療のメカニズムを理解するために必要な知識を学ぶ。解剖学・生理学の復習も交えながら、主に運動を担っている骨・関節・筋肉・神経の構造機能、姿勢・歩行、反射などを取り上げ、臨床での活用をめざす。	2 前	30	1	○			○	○		
19	○		病理学概論1	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。まず、病理学とはどのような学問か理解した上で、病理学の基礎から始め、病因、循環障害、退行性病変を理解する。	2 前	30	1	○			○	○		
20	○		病理学概論2	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。その中には、進行性病変、炎症、腫瘍、アレルギー、先天異常も含まれるので、それぞれの概要やメカニズムを学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○		
21	○		衛生学・公衆衛生学1	衛生学・公衆衛生学は、基礎医学と臨床医学の接点となる社会医学の分野であり、包括的な科目である。衛生学・公衆衛生学の理論や疫学の方法論を踏まえたうえで、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病予防のあり方などについて学習する。	1 前	30	1	○			○	○		
22	○		衛生学・公衆衛生学2	衛生学・公衆衛生学は、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関連要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学ぶ。	1 後	30	1	○			○	○		
23	○		臨床医学総論1	医療面接から始まり、身体観察を行い、適切な治療を行うためには診察法や主たる症候に精通することが必須である。本科目では症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○		
24	○		臨床医学総論2	各種検査や疾患を理解し、検査所見や各疾患の症状から疾患を導き出し、カルテ記入ができるように学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○		
25	○		リハビリテーション医学1	リハビリテーションを支える基本理念から障害の評価、さらには理学療法や作業療法などの医学的リハビリテーションについて総論的に学ぶ。	3 前	30	1	○			○	○		
26	○		リハビリテーション医学2	脳卒中、脊髄損傷、切断、小児、骨関節疾患など各疾患のリハビリテーションについて各論的に学ぶ。	3 後	30	1	○			○	○		
27	○		臨床医学各論1	本科目は、臨床医学における「整形外科学」を中心とした授業である。ともに西洋臨床医学の基礎であり、中核的存在である。西洋医学的な疾病へのアプローチ、すなわち西洋医学的思考の把握に直結し、その習得を目標とする。	2 前	30	1	○			○	○		
28	○		臨床医学各論2	臓器別（呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、腎尿路疾患）について学び、それぞれの疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。	2 後	30	1	○			○	○		
29	○		臨床医学各論3	臓器別（消化器疾患、神経疾患）、精神疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3 前	30	1	○			○	○		
30	○		臨床医学各論4	感染症、内分泌疾患、代謝異常、眼科、一般外科、婦人科、麻酔科疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3 後	30	1	○			○	○		

31	○		医療概論	医療に関するあらゆる事項を広く学習する。広い知識を身につけるとともに、自ら考え、判断する力を養い、医療人として独り立ちできるよう、精神面、知識面での基礎力を養う。	1前	30	1	○	△		○		○		
32	○		関係法規	はりきゅう施術は、人体に危害を及ぼすおそれのある行為を行うことも含まれているため、一定水準の知識及び技能を有する者が行う必要がある。免許者の業務が適正に行われるよう法の知識を習得する。	3後	30	1	○			○		○		
33	○		社会保障制度・職業倫理	医療システム、保険制度ならびに教育現場など鍼灸師を取り巻く現状について学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
34	○		東洋医学概論1	鍼灸治療を行う上で最も基礎となる東洋医学の基礎理論、人体に対する考え方、疾病観を学ぶことを目的とする。	1前	30	1	○			○		○		
35	○		東洋医学概論2	鍼灸治療に直接関わる五臓の働きを中心とした藏象ならびに病因病機について学ぶ。この基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療の基礎を固めていく。	1後	30	1	○			○		○		
36	○		東洋医学概論3	東洋医学的な基礎知識を踏まえて東洋医学的な診察法である四診（望診・聞診・問診・切診）について学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
37	○		東洋医学概論4	東洋医学の診断から治療に至る過程である弁証論地について学ぶ。東洋医学概論1～3で学んだ内容を含め、東洋医学の理論を臨床に活かすことを目的とする。	2後	30	1	○			○		○		
38	○		経絡経穴概論1	「経穴」は鍼灸治療を行う上で基本となるものである。本授業では名前（経穴名）、取り方（取穴法）、六臓六腑との関係を覚え、また要穴の意味を理解する。	1前	30	1	○			○		○		
39	○		経絡経穴概論2	本授業では、骨度法で身体各部の位置を理解し、全ての経穴の取穴ができることを目標とし、各経絡の要穴を理解し、鍼灸治療に必要な能力を身に付ける。	1後	30	1	○			○		○		
40	○		経絡経穴概論3	経絡経穴概論1、2で学んだ経穴について、人体を対象に取穴することで経絡の走行イメージとともに取穴方法を理解する。	2前	30	1	○		△	○		○		
41	○		経絡経穴概論4	主要経穴とそれが存在する部位の筋肉、血管および神経について解剖学的な知識と共に部位ごとに学ぶ。	2後	30	1	○		△	○		○		
42	○		はりきゅう理論	鍼灸施術とその治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする。また、鍼や灸の基本的知識（術式や製造方法など）を理解する。	3後	30	1	○			○		○		
43	○		東洋医学臨床論1	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、現代医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。疾患毎に注意を要するもの、適応となるものの判断を的確にできるようにする。	2前	60	2	○		△	○		○		
44	○		東洋医学臨床論2	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	2後	60	2	○		△	○		○	○	
45	○		東洋医学臨床論3	症例によっては実際の変化を測定する実験実技の要素も取り入れ、知識と技術の両輪をバランスよく学ぶ。	3前	60	2	○		△	○		○	○	
46	○		東洋医学臨床論4	教科書だけの治療法・処方例にとらわれず、伝統的あるいは経験的知識に基づいた治療法も取り入れ、臨床現場で生かせる知識・技術を身につける。	3後	60	2	○		△	○		○		
47	○		臨床鍼灸学1（経絡治療）	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起している根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。	3前	30	1	△			○	○		○	○
48	○		臨床鍼灸学2（経絡治療）	東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	3後	30	1	△			○	○		○	○

49	○		生体観察	鍼灸師にとってランドマークの触知や筋の緊張度をツボの反応として触察することは必須である。これらを正確に実施するために必要な触察技術を実技を中心に学ぶ。	1後	30	1			○	○	○						
50	○		病態生理学	鍼灸臨床で遭遇するさまざまな疾患においてみられる症状について、そのメカニズムを解剖学、生理学の知識をもとに理解し、他人に発表・説明できることを目的とする。	2後	30	1	△	○		○	○						
51	○		あはきの適応診断	鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。	2後	30	1	△		○	○	○						
52	○		社会はりきゅう学	鍼灸院に来院される高齢者を医学的、社会的にとらえ、鍼灸師としてどのように関わっていくべきかを考えられるようにする。また、様々な分野の疾患について研究報告等を交えながら学ぶことによってさらなる理解を深める。	3前	30	2	△	○	△	○	○						
53	○		はり基礎実技1	消毒操作、リスク管理（過誤・副作用）の知識を学んだ上で、鍼を刺入するという一番基礎的な技術を何度も基礎練習を繰り返し身に付ける。	1前	60	2	△		○	○	○						
54	○		はり基礎実技2	解剖学的な経穴部位の知識を十分理解した上で、リスク管理をしながら、各経穴・各部位への刺鍼技術を身に付ける。	1後	60	2	△		○	○	○						
55	○		きゅう基礎実技1	灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、人に対し施術することができるように、基礎知識・基礎技術を学ぶ。	1前	30	1	△		○	○	○						
56	○		きゅう基礎実技2	様々な灸法を理解し身に付けた上で、人への施術や、難しい部位への施灸技術を身に付ける。	1後	30	1	△		○	○	○						
57	○		はりきゅう応用実技	特殊鍼法（皮内鍼、円皮鍼、小児鍼、接触鍼、灸頭鍼）、低周波鍼通電刺激などを学ぶ。また教科書以外からも運動鍼、頭鍼など臨床で使用されている手技を身に付ける。	2前	30	1	△		○	○	○						
58	○		はりきゅう実践実習1（西洋医学系1）	西洋医学的診察内容（関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査（MMT）、血圧測定、反射検査（深部腱反射・病的反射・表在反射）、感覚検査）を理解・習得し、身体各部位（主要な関節）の評価を行う。	2前	60	2	△		○	○	○						
59	○		はりきゅう実践実習2（西洋医学系2）	脳神経検査法・神経学的所見や、頸部・肩関節・前腕部の評価法、胸郭出口症候群・末梢神経絞扼障害の診察と評価、足関節・膝関節・腰部の評価と治療に対する知識・技術を修得する。	2後	30	1	△		○	○	○						
60	○		はりきゅう実践実習3（西洋医学系3）	はりきゅう実践実習1・2で習得した知識・技術を活かし、臨床現場で種々の疾患に対応できるよう症例検討を中心とした内容を行う。総合診療的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	60	2	△		○	○	○						
61	○		はりきゅう実践実習4（東洋医学系）	四診（望診・聞診・問診・切診）を実践し、総合判断のもとに証を立て、その証に対し治療方針・配穴の決定を行い、治療に至るまでの一連の東洋医学的治療を身につけることを目的とする。	2後	30	1	△		○	○	○						
62	○		はりきゅう実践実習5（東洋医学系）	本校独自の東洋医学治療システムを使った診察・治療法を身に付ける。また、症例検討を中心とした内容を繰り返すことで、東洋的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	30	1	△		○	○	○						
63	○		はりきゅう臨床実習前教育	臨床実習に臨むにあたり、医療面接からはり・きゅうの基本操作など基本的な知識・技術を確認し、取得できることを目指す。	2前	30	1	△		○	○	○						
64	○		はりきゅう総合実習	臨床現場に出る前に今までの実技内容を総合的に振り返り、確実に自分のものとする。臨床現場を想定しお互いに治療を行うことで、実際の患者と対峙した時に落ち着いて迷いのない鍼灸施術を行うことが出来るようになることを目的とする。	3後	30	1	△		○	○	○						
65	○		臨床実習1	付属鍼灸院において、一般の患者を対象とした治療の見学を中心に実施し、治療の流れや臨床における心得を理解する。	1前後	45	1			○	○	○						
66	○		臨床実習2	鍼灸院、鍼灸接骨院、医療機関、介護施設さらにはスポーツの現場において見学を中心とした体験実習を行う。	2前後	45	1			○	○	○	○					

67	○	臨床実習3	付属治療院・付属治療施設において実習簿をもとに現場の指導者や院長より指導を受け、鍼灸臨床実習を行う。さらに担当教員が個別面談をはじめとしたフィードバックを行う。	3 前後	90	2			○	○	○		
68	○	総合演習1	卒業研究を行う。また、研究や学術活動に対する心構え・態度や研究への基本的知識を習得し、研究的思考の過程を知り、研究結果の事象に対し科学的に考察し、将来の研究の素養を養うことを目的とする。	2 後	30	1			○	○	○	○	
69	○	総合演習2	総合演習1の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	3 前	30	1			○	○	○	○	
70	○	総合演習3	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	1 前後	30	1			○	○	○		
71	○	総合演習4	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	2 前後	30	1			○	○	○		
72	○	総合演習5	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	3 前後	30	1			○	○	○		
73	○	医学演習1	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『解剖学』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 前	30	1			○	○	○		
74	○	医学演習2	生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3 前	30	1			○	○	○		
75	○	医学演習3	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『東洋医学概論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 後	30	1			○	○	○		
76	○	医学演習4	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく、生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3 後	30	1			○	○	○		
77	○	医学演習5	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『臨床医学総論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 後	30	1			○	○	○		
78	○	医学演習6	模擬試験などを実施し、定期的に学習進行状況を確認しながら卒業・国家試験に向けて自らに課された弱点を解消することを目的とする。	3 前後	30	1			○	○	○		
合計					78	科目		96 (2655)	単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業要件については規定の出席率を満たし、指定された単位数を修得し、卒業試験		1	学年の学期区分 前・後 期
履修方法：履修評価は、科目試験、課題遂行、出席状況、授業貢献度、その他の履修状況に		1	学期の授業期間 15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。